

## 外国語科

外国語科について、以下の観点に基づき、発行社ごとに教科書を調査・研究した。

### 選定の観点

- 1 学習課題や目標の明示、適切なまとめや振り返り活動の設定など、生徒が基礎的・基本的な知識及び技能の内容を確実に習得できるよう工夫・配慮がなされていること。
- 2 適切な場面設定のもと、習得した知識及び技能を活用しながら、生徒が5領域（聞くこと、読むこと、話すこと（やり取り）、話すこと（発表）、書くこと）における言語活動を通して思考力、判断力、表現力等を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。
- 3 具体的な課題等が設定され、コミュニケーションの目的、場面、状況などを意識し、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、生徒が主体的・対話的に学ぶことができるとともに、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。また、ICT機器の活用も含め、個別最適な学びと協働的な学びを展開しやすいよう工夫・配慮されていること。
- 4 国際社会において相手の立場を尊重するため、外国語やその背景にある文化に対する理解を深め、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、生徒が5領域（聞くこと、読むこと、話すこと（やり取り）、話すこと（発表）、書くこと）において、その場で考え判断しながら相手と話すなどの対話的な活動や、複数領域を統合的に活用して行う言語活動が適切に取り上げられていること。
- 5 外国語を用いて何ができるようになるのかを意識した学習に取り組めるよう、外国語の使用を基本とした実際のコミュニケーション場面を想定した授業や活動に取り組みやすいとともに、日常的・社会的な話題に関するコミュニケーションにおいて、自分の考えや気持ちを積極的に表現しようとする態度を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。
- 6 生徒が人権の重要性を学び、人間としての生き方について考察できるための工夫・配慮がなされ、基本的人権の尊重の精神及び道徳性を身に付けられるよう、人権教育や道徳教育の視点に立った内容が積極的に取り上げられていること。
- 7 系統的・発展的に学習しやすい単元構成であることに加え、他教科等の学習内容との関連や現代的な教育諸課題との関連が想起しやすく、また他校種との接続や家庭・地域との連携についても工夫・配慮がなされていること。
- 8 表記、表現、写真、図表等が適切かつ正確であることに加え、ユニバーサルデザインの観点から、文字フォント、色の使用、紙面の構成等において見やすく読みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

## 外国語科

### 調査研究の結果の概要

#### ■東京書籍「NEW HORIZON English Course 1」「NEW HORIZON English Course 2」 「NEW HORIZON English Course 3」

全ての単元において、スパイラルな学習が行えるよう構成されており、また新出の言語材料は、目的や場面等に応じて、5領域の言語活動がバランスよく取り入れられている。生徒が中学校での到達目標に焦点化した学習に取り組みやすくするため、巻頭には各単元における学習目標、巻末には小学校から中学校、高等学校までの学びを見通した CAN-DO リスト、各単元末には振り返りや自己評価ができる「CHECK」が設定されている。各単元の「扉」では、学習到達目標と単元末にパフォーマンス課題として取り組むべき言語活動が示される等、学習計画や学習到達目標の明示が工夫されており、優れている。

各単元冒頭の「Preview」では、新出表現をどのような目的、場面、状況で使うのかを意識したり、気付いたりする活動が設定されており、生徒が言語の使用場面を想定しながら、コミュニケーション活動を行うことができ、また各単元の「Read and Think」では、概要を掴む発問、詳細を押さえる発問、表現に繋げる発問が設定されており、生徒が段階的に理解を深めたり、情報を整理しながら表現活動を行うことができるよう工夫されており、優れている。

単元を通して考える問いが設定されている各単元冒頭の「扉」は、生徒の主体的な学習への動機付けとなっており、また各単元では目的、場面、状況、伝える相手を意識しながらペアやグループで協働して取り組む活動が豊富に用意されており、それらを学習した後に改めて単元冒頭の問いに向き合うことで、学びが深まるよう工夫されている。

各単元の各ページに設定されている「Activity」では、段階的に思考を働かせる発信活動が設定されており、また学期末に取り組む「Stage Activity」では、場面設定をビデオレターという形式で提示し、複数領域を統合的に活用して、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせた多様な言語活動が用意されているなど、優れている。

#### ■開隆堂出版「Sunshine English Course 1」「Sunshine English Course 2」 「Sunshine English Course 3」

全体を通して、段階的に言語材料が配列されており、各単元の「Scenes」では、マンガ形式の短い対話と簡単な活動を通して、新出の言語材料への理解が促されている。学習指導要領に示されている3つの資質・能力を育成するための到達目標が各単元の「とびら」でわかりやすく解説されており、何が身に付いたかを生徒自身で自己評価できるよう工夫されている。また、巻末の5領域別にまとめられた CAN-DO リストには、自分に身に付いたことの過程や流れが、生徒自身に具体的に分かるように示されるなど、よく工夫されている。

各単元冒頭の「Scenes」では、具体的な場面を表すイラストを見ながら、新出表現を学べるよう構成されており、生徒が目的、場面、状況を意識しながら学べるように工夫されている。

各単元の「Tuning in」では、本文の内容を推測して答える発問や、題材を活用して答える発問、「Review & Retell」では、生徒が本文の内容を振り返り、自分の言葉で再話できるような設定、さらに「Action」では、設定された目的や場面等に応じた活動等、生徒が思考力、判断力、表現力等を身に付けられるよう工夫されており、優れている。

生徒の深い学びや主体的・対話的な学びにつながるよう、各単元の「Action」における、題材

に関連した自己表現活動や対話的な課題解決の設定、「Our Project」における、読んだり聞いたりした内容をもとに即興でやり取りする課題が用意されているなど工夫されている。

領域を統合した言語活動として学期末に「Our Project」が設定されており、生徒が自身で作成したメモをもとに即興でやり取りし、その後、やり取りした内容をもとに、原稿を書くといった、生徒が即興性と正確性を意識した活動に取り組めるよう工夫されている。

■三省堂「NEW CROWN English Series 1」「NEW CROWN English Series 2」  
「NEW CROWN English Series 3」

各単元ではイラストと短い対話文を用いて、目的、場面、状況等が示されることで、言語の働きが分かりやすく、またすべての単元において、言語材料と言語活動が関連付けられており、体系的な配列が工夫されている。各単元の「とびら」では、新出の言語材料や単元で取り組むべき学習活動が提示されており、また巻末のCAN-DO リストには、1年間で学んだことを、生徒自身で振り返ることができるなど、生徒が学習の見通しを立てやすく、学習した内容を確認しながら知識及び技能を習得できるよう工夫されている。

各単元の「Small Talk Plus」では、単元とリンクしたトピックでコミュニケーション活動の設定がされており、「Take Action!」では、実際のコミュニケーション場面を想定した活動が設定されている等、生徒が場面を意識しながら学習した表現を活用することで、実感を高められるよう工夫されており、優れている。

各単元のすべてのパートに設けられている問いや、読むことに慣れるために設けられている「Listen & Read」、また各トピックについて書かれた本文の概要を掴んでから表現活動に移る各単元末の「Goal Activity」により、概要を把握し、そして要点へ移るといった段階的に学習内容をつかむことができるよう工夫されている。

各単元の「Goal Activity」では、既習の文法事項を活用して、目的や場面、状況に応じて、まとまりのある内容を読んだり、話したり書いたりする活動が用意されている。また生徒が主体的に継続して学習に取り組めるよう、題材に一貫性を持たせて、テーマ設定やゴールに至るまでのステップが細かく設定されるなど、工夫されている。

学期末に取り組む「Project」では、聞くこと、読むことの活動に取り組んだ後、その学習内容について話すこと、書くことの活動や、書いたことをもとに発表する活動などの課題が用意されており、生徒が自分の考えを整理しながら、発信する力を身に付けられるよう工夫されており、優れている。

■教育出版「ONE WORLD English Course 1」「ONE WORLD English Course 2」  
「ONE WORLD English Course 3」

複数の領域を活用しながら学習に取り組む「Project」が各学年で複数回用意されており、また関連性のある言語材料を同じ単元や連続した単元で扱う等、系統的な配列が工夫されている。

各単元末に設定されている「Lessonを振り返ろう」では、生徒が自分で学習到達度を把握するための到達目標が設定されており、巻末のCAN-DO リストでは、中学校3年間の学びを見通した学習到達目標に対して一定の学習内容のまとまりごとに生徒自身で達成度を確認できる等、生徒がその単元の学習がどのように位置付けられているか確認し、その都度「できるようになったこと」を意識しながら、学習に取り組めるよう工夫されている。

各パートの「Think & Try!」では、読んで理解したことについて、自分の意見や考え、感想を述べたりする表現活動が設定されており、場面・状況を意識した表現に取り組めるよう工夫され

ているが、各パートの「Tool Kit」や「Let's Listen」では、新出表現に触れる活動が用意されている一方で、本文の要点を掴む活動が少なく、工夫がやや弱い。

実生活に即した言語活動や外国語習得のコツが取り上げられている小単元の「Tips」、円滑な会話に向けた語彙や表現の参照一覧が用意されている巻末資料、またペアでやり取りする課題が設定されている「Activities Plus」など、外国語を用いたコミュニケーションへの意欲を高められるよう工夫されている。

各単元のパートでは、領域ごとの言語活動はバランスよく設定されているものの、活動相互の繋がりが弱く、生徒が複数領域を統合して活用するための工夫としては十分ではない。また、学期末に取り組む「Project」では、5領域を活用した言語活動に取り組む課題が設定されているが、理解した内容をもとに発信する手立ての工夫が十分ではない。

■光村図書出版「Here We Go! ENGLISH COURSE 1」「Here We Go! ENGLISH COURSE 2」  
「Here We Go! ENGLISH COURSE 3」

教科書本文が3年間でひとつの物語となる構成の中で、スパイラルに語彙・表現を学習できるよう系統的に言語材料が配置されている。生徒が見通しをもって言語材料や語彙を習得できるよう、教科書全編が、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」もしくは「書くこと」の流れで統一されており、また巻頭及び各単元の「扉」には、「読むこと」と「話すこと」もしくは「書くこと」の学習到達目標が示されているとともに、単元末の振り返りや巻末のCAN-DOリストで生徒自身が到達度を確認できるなど、よく工夫されている。

4人の中学生が登場するストーリーの中で、実生活や実社会に即した場面や素材が豊富に扱われているとともに、生徒の題材への理解を深めるため、絵や写真から題材への興味付けを行い、ストーリーを推測しながら聞いたり読んだりする活動へ繋がるよう構成されている等、到達目標を達成できるよう教材配列が工夫されており、生徒が自然な形で、目的や場面等を把握しながら、学習を進めることができる点で優れている。

各単元末には、題材に関して自分の言葉で発信する活動「Goal」、各学期末には、習得した知識及び技能を活用しながら、グループで協力して課題に取り組む活動や相手に伝えるための改善点を考える視点が示されている「You can do it」、さらに主体的に言語活動に取り組むための手法が紹介されている「Let's Talk」など、生徒の学びが深まるよう工夫されている。

理解したことを表現に繋げる各単元の「Part」や「Goal」による言語活動、複数の領域を統合的に活用してグループで取り組む学期末の「You Can Do It!」、さらに Retelling の活動が自分でもできるように、巻末にイラストが準備されている等、生徒が外国語によるコミュニケーション力を高めることができるよう工夫されている。

■新興出版社啓林館「BLUE SKY English Course 1」「BLUE SKY English Course 2」  
「BLUE SKY English Course 3」

生徒にとって身近な話題と言語材料を関連付けることで英語学習への自然な導入を図られており、言語材料に慣れ親しみ、知識及び技能の習得、活用するという学習過程が系統的に整理されている。各単元の「とびら」では、単元・パート別に、学習到達目標が示されており、生徒が見通しを持って主体的に学習を進めることができるように、また巻末のCAN-DOリストでは、生徒自身で学習事項の振り返りと自己評価が行えるよう工夫されている。

本文の概要を自然に捉えることができるよう単元のテーマに沿った言語の使用場面や状況が明示や各単元の Part 1～3 の本文の上部と下部にテーマに沿った問いが配置されており、さらに

「Read & Think」では、本文の内容への問いが Step 1～3 と段階的に構成されている等、要点をつかみやすくする工夫がされている。

全体を通して、目的や場面、状況に応じて、即興で話したり、話したことを書いたりする活動が適宜用意されているとともに、1 学年から 2 学年の前半においては、本文の多くが対話形式で構成されており、また各単元のテーマに沿った短い文章をつくり発表する「Express Yourself」、実生活に即した言語活動が用意されている「Let' s Talk」「Let' s Listen」など、生徒が実際の場面を意識し、外国語を用いたコミュニケーションへの意欲を高められるよう工夫されている。

各単元の「Let' s Talk」「Think & Speak」「Let' s Write」等で、即興的な対話活動が設定されているが、対話を広げるための手立ての明示が不十分であり、また各単元の「Speak」は、パターン・プラクティスの域を出ておらず、生徒が即興的なやり取りを継続して行うための工夫としてはやや弱い。

※詳細の結果・データは、観点別資料及び観点別・視点別評価資料に記載。

選定の観点		選定の視点	東京書籍	開隆堂	三省堂	教育出版	光村図書	啓林館
1	学習課題や目標の明示、適切なまとめや振り返り活動の設定など、生徒が基礎的・基本的な知識及び技能の内容を確実に習得できるよう工夫・配慮がなされていること。	1 言語材料の配列・系統性の工夫	○	○	○	○	○	○
		2 単元等の学習計画やCAN-DOリスト形式の学習到達目標の明示	◎	◎	○	○	◎	○
		3 言語材料の理解を深める工夫	○	○	○	○	○	○
2	適切な場面設定のもと、習得した知識及び技能を活用しながら、生徒がら領域(聞くこと、読むこと、話すこと(やり取り)、話すこと(発表)、書くこと)における言語活動を通して思考力、判断力、表現力等を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。	1 コミュニケーションを行う目的や場面、状況等の明確化・必然性の工夫	◎	○	◎	○	◎	○
		2 題材への理解を深め、概要や要点をとらえる活動の工夫	◎	◎	○	△	○	○
		3 情報を整理しながら考えなどを形成し表現する活動の工夫	○	○	◎	○	◎	○
3	具体的な課題等が設定され、コミュニケーションの目的、場面、状況などを意識し、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、生徒が主体的・対話的に学ぶことができることともに、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。また、ICT機器の活用も含め、個別最適な学びと協働的な学びを展開しやすいよう工夫・配慮されていること。	1 外国語を用いて主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながる工夫	○	○	○	○	○	○
		2 主体的・対話的で深い学びにつながる工夫	○	○	○	○	○	○
		3 多様な感じ方や考え方に接し、新しい捉え方や考え方に気付くための工夫	○	○	○	○	○	○
		4 デジタル教科書を含めたICT機器を活用するなど、個別最適な学びと協働的な学びを展開するための工夫	○	○	○	○	○	○
4	国際社会において相手の立場を尊重するため、外国語やその背景にある文化に対する理解を深め、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、生徒がら領域(聞くこと、読むこと、話すこと(やり取り)、話すこと(発表)、書くこと)において、その場で考え判断しながら相手と話すなどの対話的な活動や、複数領域を統合的に活用して行う言語活動が適切に上げられていること。	1 外国語の文化的背景等の理解を深めるための工夫	○	○	○	○	○	○
		2 即興性を意識した言語活動に取り組むための工夫	○	○	○	○	○	△
		3 複数領域を統合的に活用した言語活動に取り組むための工夫	◎	○	◎	△	○	△
5	外国語を用いて何ができるようになるのかを意識した学習に取り組めるよう、外国語の使用を基本とした実際のコミュニケーション場面を想定した授業や活動に取り組みやすいとともに、日常的・社会的な話題に関するコミュニケーションにおいて、自分の考えや気持ちを積極的に表現しようとする態度を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。	1 外国語使用を基本とした授業を行うための工夫	○	○	○	○	○	○
		2 日常的・社会的な話題を題材として言語活動に取り組む工夫	○	○	○	○	○	○
		3 CAN-DOリスト形式の学習到達目標を活用するための工夫	◎	◎	○	○	◎	○
6	生徒が人権の重要性を学び、人間としての生き方について考察できるための工夫・配慮がなされ、基本的人権の尊重の精神及び道徳性を身に付けられるよう、人権教育や道徳教育の視点に立った内容が積極的に取り上げられていること。	1 人権教育の推進	○	○	○	○	○	○
		2 道徳教育の推進	○	○	○	○	○	○
7	系統的・発展的に学習しやすい単元構成であることに加え、他教科等の学習内容との関連や現代的な教育諸課題との関連が想起しやすく、また他校種との接続や家庭・地域との連携についても工夫・配慮がなされていること。	1 単元構成の系統性・発展性	◎	◎	○	○	○	○
		2 他教科や教育課題等との関連	○	○	○	○	○	○
		3 他校種との接続	○	○	○	○	○	○
		4 家庭・地域との連携	○	○	○	○	○	○
8	表記、表現、写真、図表等が適切かつ正確であることに加え、ユニバーサルデザインの観点から、文字フォント、色の使用、紙面の構成等において見やすく読みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。	1 文字や写真、図表等の適切さ、正確性、使いやすさ	○	○	○	○	○	○
		2 ユニバーサルデザインの視点	○	○	○	○	○	○
		3 装丁や編集の適切さ、堅牢性の工夫	○	○	○	○	○	○
		4 用紙、インク等の環境面への配慮	○	○	○	○	○	○

【外国語】観点別資料

【選定の観点1】

学習課題や目標の明示、適切なまとめや振り返り活動の設定など、生徒が基礎的・基本的な知識及び技能の内容を確実に習得できるよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名	2 東書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館
<p>○全ての単元において、スパイラルな学習が行えるよう構成されているとともに、新出の言語材料は、目的や場面等に応じて、5領域の言語活動がバランスよく取り入れられているなど、生徒が基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けられるよう工夫されている。</p> <p>○巻頭には各単元における学習目標、巻末には小学校から中学校、高等学校までの学びを見通したCAN-DO リストが掲載されており、生徒がこれまでとこれからを意識しながら、中学校での到達目標に焦点化した学習に取り組みやすい。また、各単元の「扉」では、学習到達目標と単元末にパフォーマンス課題として取り組むべき言語活動が示されており、見通しをもちやすく、また各単元末の「CHECK」では、振り返りや自己評価ができるよう工夫されており、優れている。</p> <p>○各単元の「Unit Activity」に向けた活動を通して、知識及び技能の習得と活用を繰り返しながら、生徒が言語材料への理解を深められるよう構成が工夫されている。</p>	<p>○全体を通して、段階的に言語材料が配列されているとともに、各単元の「Scenes」では、マンガ形式の短い対話と簡単な活動を通して、生徒にとって、新出の言語材料への理解が促されているなど、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けられるよう工夫されている。</p> <p>○各単元の「とびら」において、学習指導要領に示されている3つの資質・能力を育成するための到達目標が分かりやすく解説されており、何が身に付いたかを生徒自身で自己評価できるよう工夫されている。また、巻末の5領域別にまとめられたCAN-DO リストには、自分に身に付いたことの過程や流れが、生徒自身に具体的に分かるよう示されるなど、よく工夫されている。</p> <p>○各学年に複数回用意されている「Our Project」では、各単元で学んだ言語材料を活用しながら、複数領域を統合して課題解決に取り組む活動が用意されており、生徒が言語材料への理解を深められるよう工夫されている。</p>	<p>○各単元で、イラストと短い対話文を用いて、目的、場面、状況等が示されるなど、言語の働きが分かりやすく提示されており、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの活動を通して、生徒が基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けられるよう工夫されている。</p> <p>○すべての単元で、言語材料と言語活動が関連付けられるなど、体系的な配列が工夫されているとともに、各単元の「とびら」では、新出の言語材料や単元で取り組むべき学習活動が提示されており、生徒が学習の見通しを立てやすい。また、巻末のCAN-DO リストには、1年間で学んだことを、生徒自身で振り返ることができるよう工夫されている。</p> <p>○各学年に複数設定されている「Project」では、各学期で習得した知識及び技能を生かしながら、複数領域を統合して課題解決に取り組む活動が用意されており、生徒が言語材料への理解を深められるよう工夫されている。</p>	<p>○関連性のある言語材料を同じ単元や連続した単元で扱うなど、系統的な配列が工夫されているとともに、複数の領域を活用しながら学習に取り組む「Project」が、各学年で複数回用意されているなど、生徒が基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けられるよう工夫されている。</p> <p>○各単元末に設定されている「Lesson を振り返ろう」では、生徒が自分で学習到達度を把握するための到達目標が設定されている。また、巻末のCAN-DO リストには、中学校3年間の学びを見通した学習到達目標に対し、一定の学習内容のまとめごとにより、生徒自身で達成度を確認できるよう工夫されている。</p> <p>○「Project」では、言語材料を多面的に理解できるよう工夫されている。また、「Activities Plus」では、帯活動で使える活動が提案されているなど、生徒が言語材料への理解を深められるよう工夫されている。</p>	<p>○教科書本文が3年間で一つの物語となる構成の中で、スパイラルに語彙・表現を学習できるよう系統的に言語材料が配置されており、生徒が基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けられるよう工夫されている。</p> <p>○教科書全編が、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」もしくは「書くこと」の流れで統一されており、生徒が見通しをもって言語材料や語彙を習得できるよう工夫されている。また、巻頭及び各単元の「扉」には、「読むこと」と「話すこと」もしくは「書くこと」の学習到達目標が示されているとともに、単元末には、学習到達度を把握するための振り返りが用意されている。さらに、巻末のCAN-DO リストで生徒自身が到達度を確認できるなど、よく工夫されている。</p> <p>○各単元に用意されている「扉」「Part」「Goal」等の活動を通して、言語材料や語彙・表現等をスパイラルに学習することで、生徒が言語材料への理解を深められるよう工夫されている。</p>	<p>○生徒にとって身近な話題と言語材料を関連付けることで英語学習への自然な導入を図ることで、言語材料に慣れ親しみ、知識及び技能の習得、活用するという学習過程が系統的に整理されており、生徒が基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けられるように工夫されている。</p> <p>○各単元の「とびら」において、単元・パート別に、学習到達目標が示されており、生徒が見通しをもって主体的に学習を進めることができるよう工夫されている。また、巻末のCAN-DO リストには、生徒自身で学習事項の振り返りと自己評価が行えるよう工夫されている。</p> <p>○単元末にこれまでに学んだ表現を使いながら言語活動に取り組むことができるよう「Think&amp;Write」もしくは「Think&amp;Speak」が用意されており、生徒が言語材料への理解を深められるよう工夫されている。</p>	

【選定の観点2】

適切な場面設定のもと、習得した知識及び技能を活用しながら、生徒が5領域（聞くこと、読むこと、話すこと（やり取り）、話すこと（発表）、書くこと）における言語活動を通して思考力、判断力、表現力等を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名	2 東書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館
	<p>○各単元冒頭の「Preview」では、新出表現をどのような目的、場面、状況で使うのかを意識したり、気付いたりする活動が設定されており、生徒が言語の使用場面を想定しながら、コミュニケーション活動を行うことができるよう工夫されており、優れている。</p> <p>○全体を通して、読む活動では、概要や大意をつかみ、詳細を押さえ、最後に題材に関して自分の考えを表現するという流れで構成されている。また、各単元の「Read and Think」では、概要をつかむ発問、詳細を押さえる発問、表現につなげる発問が設定されており、生徒が段階的に理解を深めたり、情報を整理しながら表現活動を行ったりできるよう工夫されており、優れている。</p> <p>○各単元の「Activity」から「Unit Activity」へ、さらに各学期末に取り組む「Stage Activity」に至る流れの中で、系統的に生徒が自分の考えを積み重ねながら、情報を整理し、表現することができるよう工夫されている。</p>	<p>○各単元冒頭の「Scenes」では、具体的な場面を表すイラストを見ながら、新出表現を学べるよう構成されており、どのような目的、場面、状況で使われるのか、生徒にとって分かりやすく伝わるよう工夫されている。</p> <p>○各単元の「Tuning in」では、本文の内容を推測して答える発問や、題材を活用して答える発問が設定されている。また「Review &amp; Retell」では、生徒が本文の内容を振り返り、自分の言葉で再話できるように設定されている。さらに、設定された目的や場面等に応じた活動に取り組む「Action」を通して、生徒が思考力、判断力、表現力等を身に付けられるよう工夫されており、優れている。</p> <p>○習得した知識及び技能、表現等を活用して、総合的なパフォーマンス活動を行う「Our Project」など、生徒が自分の考えを形成し、表現する学習活動が適宜設定されており、表現活動の質を高められるよう工夫されている。</p>	<p>○各単元の「Small Talk Plus」では、単元とリンクしたトピックでコミュニケーション活動ができるよう工夫されている。また、「Take Action!」では、実際のコミュニケーション場面を想定した活動を通して、生徒が学習した表現を活用することで、実感を高められるよう工夫されており、優れている。</p> <p>○各単元の全てのパートの本文上部に問いがあることと、「Listen &amp; Read」が用意されていることで、概要から要点へと本文の内容が段階的につかめるよう工夫されている。また、各単元末の「Goal Activity」では、各トピックについて書かれた本文の概要をつかんでから表現活動に移ることができるよう工夫されている。</p> <p>○適宜設定されている「Take Action」等では、現実の使用場面におけるトピックに対して、生徒が必要な情報を整理しながら、既習の文法事項を用いて、まとまりある内容の文章を表現する活動が設定されており、優れている。</p>	<p>○各パートの「Think &amp; Try!」では、本文の内容を活用した表現活動を提案することで、場面・状況を意識した表現に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○各パートの「Tool Kit」や「Let's Listen」では、新出表現に触れる活動が用意されているが、その分「Read &amp; Try」のような、本文の要点をつかむ活動が少なく、工夫がやや弱い。</p> <p>○各単元の「Task」では、本文と異なる場面で、生徒が考えや意見を整理し、表現する力を身に付けられるよう工夫されている。また、適宜設定されている「Tips」では、各領域の言語活動に取り組む手法が紹介されるなど、表現活動の質を高められるよう工夫されている。</p>	<p>○4人の中学生が登場するストーリーの中で、実生活や実社会に即した場面や素材が豊富に扱われているとともに、到達目標を達成できるような教材配列が工夫されているなど、生徒が自然な形で、目的や場面等を把握しながら、学習を進めることができる点で優れている。</p> <p>○全体を通して、生徒の題材への理解を深めるため、絵や写真から題材への興味付けを行い、ストーリーを推測しながら聞いたり読んだりする活動へつながるよう構成されている。また、各パートの学習は効果的に目標に到達できるよう、単元の概要や要点を捉えながら進められるよう工夫されている。</p> <p>○各単元末の「Goal」や各学期末に取り組む「You Can Do It!」では、理解したことを表現につなげる言語活動が設定されており、系統的に生徒が自分の考えを積み重ねながら、情報を整理し、表現することができるよう工夫されており、優れている。</p>	<p>○単元のテーマに沿って、言語の使用場面や状況が明示されていることで、生徒の理解を深め、言語活動の必然性を意識することができるよう工夫されている。</p> <p>○各単元のPart1～3の本文の上部と下部にテーマに沿った問いが配置されており、本文の概要を自然に捉えることができるよう工夫されている。「Read &amp; Think」では、本文の内容への問いがStep1～3と段階的に構成されており、要点をつかみやすくする工夫がされている。</p> <p>○各単元末の「Think &amp; Write」や各学期末に取り組む「Project」にて、学習してきた内容を統合的に取り組めるようになっており、生徒が自分の考えを積み重ねながら、情報を整理し、表現することができるよう工夫されている。</p>



【選定の観点3】

具体的な課題等が設定され、コミュニケーションの目的、場面、状況などを意識し、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、生徒が主体的・対話的に学ぶことができるとともに、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。また、ICT機器の活用も含め、個別最適な学びと協働的な学びを展開しやすいよう工夫・配慮されていること。

発行者名					
2 東書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館
<p>○小単元の「Real Life English」等では、実生活に即した言語活動や対話を続ける練習など、主体的に英語でのやり取りをするための活動が設定されている。また、巻末資料等では豊富な語彙、表現が紹介されており、外国語を用いたコミュニケーションへの意欲を高められるよう工夫されている。</p> <p>○各単元冒頭の「扉」で、単元を通して考える問いが設定されており、生徒の主体的な学習への動機付けとなっている。また、各単元は目的、場面、状況、伝える相手を意識しながら、ペアやグループで協働して取り組む活動が豊富に用意されており、それらを学習した後に改めて単元冒頭の問いに向き合うことで、学びの深まりを目指すよう工夫されている。</p> <p>○各単元の「Read and Think」や読み物教材「Let's Read」では、外国の文化や生活が紹介されるなど、生徒が異なる文化圏の人々の発想や考え方を知り、広い視野で物事を捉えようとする態度を身に付けられるよう工夫されている。</p> <p>○「Unit Activity」や「Stage Activity」ではタブレットの思考ツールを用いて問題解決をするなどICTを活用した協働的な学びができるよう工夫されている。</p>	<p>○実生活に即した言語活動が設定されている「Power-Up」、会話をつなげ深めるための手法や相手にわかりやすく伝えるための方法等が紹介されている「Step」など、外国語を用いたコミュニケーションへの意欲を高められるよう工夫されている。</p> <p>○各単元の「Action」では、題材に関連した自己表現活動や対話的な課題解決の活動が用意されるなど、主体的・対話的な学びにつながるよう工夫されている。また、「Our Project」では、読んだり聞いたりした内容を基に即興でやり取りする課題が用意されているなど、生徒の深い学びにつながるよう工夫されている。</p> <p>○「Reading」において、平和、人権、共生などのテーマが用意されており、多様な考え方に触れながら、課題解決に向けて主体的に行動することの大切さを意識できるよう工夫されている。</p> <p>○「Our Project」ではタブレットで調べた内容をグループで共有したり、プレゼンテーションやポスターを作成するなど、協働的な学びができるよう工夫されている。</p>	<p>○巻末の資料に自分の身の回りのことを伝える表現が紹介されており、また、小単元の「Take Action!」では、実生活に即した言語活動が設定されており、外国語を用いたコミュニケーションに意欲を高められるよう工夫されている。</p> <p>○各単元の「Goal Activity」では、既習の文法事項を活用して、目的や場面、状況に応じて、まとまりのある内容を読んだり、話したり書いたりする活動が用意されている。また、題材に一貫性を持たせて、テーマ設定やゴールに至るまでのステップが細かく設定されるなど、生徒が主体的に継続して学習に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○「Reading Lesson」では、童話や昔話をはじめ、社会的・文化的・歴史的に多様な題材が取り上げられており、題材を通して新しい考えに気付けるよう工夫されている。</p> <p>○「Project」では「旅行プラン」や「CM作成」など協働しながら行う提案型課題が設けられており、またタブレットを用いて企画・情報整理・発表をする課題が設定されているなどICTを活用した活動ができるよう工夫がされている。</p>	<p>○小単元の「Tips」では、実生活に即した言語活動や外国語習得のコツが取り上げられている。また、巻末資料では、円滑な会話に向けた語彙や表現の参照一覧が用意されているなど、外国語を用いたコミュニケーションへの意欲を高められるよう工夫されている。</p> <p>○各パートの「Think &amp; Try」では、読んで理解したことについて、自分の意見や考え、感想を述べたりする内容が用意されており、また、「Activities Plus」では、ペアでやり取りする課題が用意されるなど、主体的・対話的に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○「Reading」では、様々な文化的・歴史的背景が題材として取り上げられるなど、文化の多様性や新しい捉え方・感じ方に気付くことができるよう工夫されている。</p> <p>○「Project」において「商品開発」や「ディベート活動」などが設定されており、タブレット端末で情報収集や自分の考えをマッピングして、提案や発表ができる工夫がされている。</p>	<p>○各単元がストーリー仕立てでつながっており、展開を楽しみながら読み通すことができるよう工夫されている。また、小単元の「Daily Life」では、実生活に即した言語活動が設定されており、外国語を用いたコミュニケーションへの意欲を高められるよう工夫されている。</p> <p>○各単元末に、題材に関して自分の言葉で発信する活動「Goal」が用意されている。また、各学期末には、習得した知識及び技能を活用しながら、グループで協力して課題に取り組む活動や相手に伝わるための改善点を考える視点が示されている「You can do it」、さらに、主体的に言語活動に取り組むための手法が紹介されている「Let's Talk」など、生徒の学びが深まるよう工夫されている。</p> <p>○各単元の「Goal」や小単元「You Can Do It!」には、持続可能な社会に向けてリポートを行うテーマが用意されており、多様な考え方に触れることで、新しい考え方に気付くことができるよう工夫されている。</p> <p>○各単元の「Goal」ではメールを送り合ったり、タブレットを用いたプレゼンテーション課題が設定されるなど、ICTを活用した発信や発表活動ができるよう工夫されている。</p>	<p>○1学年から2学年の前半においては、本文の多くが対話形式で構成されており、生徒が実際のコミュニケーションを行う場面を意識しやすい。また各単元の「Let's Talk」「Let's Listen」では、実生活に即した言語活動が用意されているなど、外国語を用いたコミュニケーションへの意欲を高められるよう工夫されている。</p> <p>○全体を通して、目的や場面、状況に応じて、即興で話したり、話したことを書いたりする活動が適宜用意されているとともに、各単元のテーマに沿った短い文章をつくり発表する「Express Yourself」など、生徒が主体的・対話的に取り組む意欲を高められるよう工夫されている。</p> <p>○各単元の「Read &amp; Think」や読み物資料「Let's Read」では、多様な国や歴史的・文化的・社会的背景のある人物に焦点を当てた題材が用意されており、世界とのつながりや、多様な感じ方や考え方に触れられるよう工夫されている。</p> <p>○「Project」では、自らが設定したテーマや将来へのメッセージなどに対してタブレットを使用して情報整理や発表を行う活動ができるよう工夫がされている。</p>

【選定の観点4】

国際社会において相手の立場を尊重するため、外国語やその背景にある文化に対する理解を深め、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、生徒が5領域（聞くこと、読むこと、話すこと（やり取り）、話すこと（発表）、書くこと）において、その場で考え判断しながら相手と話すなどの対話的な活動や、複数領域を統合的に活用して行う言語活動が適切に取り上げられていること。

発行者名					
2 東書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館
<p>○小単元の「Real Life English」では、英語特有の表現や文構成を意識した聞き取りや作文に取り組む活動が用意されており、生徒が外国語の文化的背景や考え方を知り、広い視野で物事を捉える力を身に付けられるよう工夫されている。</p> <p>○各単元の「Read and Think」では、即興で話したり書いたり、複数領域を統合的に活用するための言語活動が取り入れられている。また「Real Life English」では、日常生活における一場面設定の中、既習表現を活用しながら、即興性を意識した対話的な活動に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○各単元の各ページに設定されている「Activity」では、段階的に思考を働かせて行う発信活動が設定されている。また、学期末に取り組む「Stage Activity」では、場面設定をビデオレターという形式で提示し、複数領域を統合的に活用して、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせた多様な言語活動が用意されているなど、優れている。</p>	<p>○パフォーマンス活動に役立つ技能が紹介される「Step for Our Project」では、文章の構成やディベートの進め方、相手を意識したメモの取り方などが提示されており、異なる文化における発想や考え方についての理解を深められるよう工夫されている。</p> <p>○各パート最初の「Scenes for Basic Dialog」では、新出文法が対話形式で導入されており、パートの終わりには「Review &amp; Retell」や「Action」等、本文の内容と関連させながら、社会で見られる自然な場面設定で、新出の言語材料を活用した、ペアやグループでの即興的なやり取りが提案されており、生徒が対話的な活動に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○学期末に取り組む「Our Project」では、生徒が自身で作成したメモをもとに即興でやり取りし、その後、やり取りした内容を基に、原稿を書くといった領域を統合した言語活動が設けられており、生徒が即興性と正確性を意識した活動に取り組めるよう工夫されている。</p>	<p>○各単元の「Notes」、「Tips for Reading」では、題材の文化的な背景や外国語使用のコツなどが取り上げられており、生徒が外国語と向き合い、外国語のもつ文化性を意識しながら、コミュニケーションを図ることができるよう工夫されている。</p> <p>○小単元の「Take Action!」では、相手とよい関係を築くため、目的を達成するため、議論を深めるためなど、目的、場面、状況を意識して、即興でのやり取りを積み重ねる課題が提案されており、生徒が英語を活用する力を無理なく身に付けられるよう工夫されている。</p> <p>○学期末に取り組む「Project」では、聞くこと、読むことの活動に取り組んだ後、その学習内容について話すこと、書くことの活動や、書いたことを基に発表する活動などの課題が用意されており、生徒が自分の考えを整理しながら、発信する力を身に付けられるよう工夫され、優れている。</p>	<p>○小単元の「Tips for」では、特定の場面の表現や英語の文構成、英文メールの書き方や即興スピーチの組み立て方などと共に、英語使用のコツが示されているなど生徒が、異なる文化の発想や考え方について理解を深められるよう工夫されている。</p> <p>○各パートの終わり「Task」には、本文の内容に関連させながら、自由なやり取りに発展させる即興性を意識した言語活動が設定されているなど、工夫されている。</p> <p>○学期末に取り組む「Project」では、5領域を活用した言語活動に取り組む課題が設定されているが、理解した内容を基に発信する手立ての工夫が十分ではない。また、各単元のパートでは、領域ごとの言語活動はバランスよく設定されているものの、活動相互のつながりが弱く、生徒が複数領域を統合して活用するための工夫としては十分ではない。</p>	<p>○教材「World Tour」を通して、外国語の背景にある多様な文化や価値観の理解を深められるよう工夫されている。また、「Notes」を通して、生徒が外国語のもつ文化的背景の理解を深められるよう工夫されている。</p> <p>○各単元内の表現活動や「Goal」「You Can Do It!」など、即興での表現活動が各所に設定されている。また、巻末とじ込みの「Let's Talk」では、即興的なやり取りの教材が用意されており、生徒が繰り返し取り組むことができるよう工夫されている。</p> <p>○各単元の「Part」や「Goal」では、理解したことを表現につなげる言語活動が設定されている。また、学期末に取り組む「You Can Do It!」では、複数の領域を統合的に活用して、グループで取り組む課題が設定されており、さらにRetellingの活動が自分でもできるように、巻末にイラストが準備されている等、生徒が外国語によるコミュニケーション力を高めることができるよう工夫されている。</p>	<p>○各単元の「Notes」では、題材の背景に関する知識や言語使用についての補足説明が用意されており、生徒が外国について知ったり、文化を比較したりできるよう工夫されている。</p> <p>○各単元の「Let's Talk」、「Think &amp; Speak」「Let's Write」等で、即興的な対話活動が設定されているが、対話を広げるための手立ての明示が十分ではない。また、各単元の「Speak」は、パターン・プラクティスの域を出ておらず、生徒が即興的なやり取りを継続して行うための工夫としてはやや弱い。</p> <p>○学期末に取り組む「Project」では、複数の領域を統合的に活用する言語活動が設定されているものの、言語活動に取り組む際の手立てや留意点等に関する記述が少ない。</p>

【選定の観点5】

外国語を用いて何ができるようになるのかを意識した学習に取り組めるよう、外国語の使用を基本とした実際のコミュニケーション場面を想定した授業や活動に取り組みやすいとともに、日常的・社会的な話題に関するコミュニケーションにおいて、自分の考えや気持ちを積極的に表現しようとする態度を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名					
2 東書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館
<p>○小単元「Real Life English」で、道案内、レストラン、買い物など、実際の英語の使用場面が設定されており、モデル対話を参照しながら、生徒が場面や状況等に応じた表現を即興的に考えるなど、英語使用を中心とした授業づくりを行いやすいよう工夫されている。</p> <p>○世界の水問題、ユニバーサルデザイン、国際支援などSDG sに関連した題材が多く扱われている。また、グラフや図表、ポスター等を読み取る活動など、生徒の知的好奇心を高める多様な題材が取り上げられるなど、工夫されている。</p> <p>○各単元の「扉」で示された到達目標に対応する形で、単元末に振り返りが設定されている。また、巻頭に記載されている目標と巻末のCAN-DO リストにおける評価が一致するよう工夫されており、各ステージでの目標への到達度や学習成果、課題を整理しながら、次のステージで取り組むべきことを、生徒が見通しをもつことができるよう工夫されているなど、優れている。</p>	<p>○小単元「Power-Up」で、ハンバーガーショップ、学校案内、レストラン、電話の会話など、生徒に身近な英語の使用場面を想定した活動が提示されており、英語の発話を中心とした授業づくりが行いやすいよう工夫されている。</p> <p>○生徒の豊かな心を育む題材として、SDG s、自然環境、ロボットなどの幅広い題材が取り上げられており、その題材を基にディベートや意見交換が提案されるなど、工夫されている。</p> <p>○各単元の「とびら」で示された到達目標と「Scenes」「Review &amp; Retell」「Action」のページに設けられたチェック欄が対応する形で設定されている。また、巻末の「CAN-DO リスト」は、領域別に英語を活用して「できること」が、生徒自身で繰り返し把握できるよう工夫されているなど、優れている。</p>	<p>○小単元「Small Talk Plus」における即興のやり取りの中で、重要な文法事項を含む短い英文が提示されるとともに、小単元「Take Action! Talk」では、あいつち、道案内、誘い、議論を進めるといった日常風景にある寸劇を用いて、生徒が即興で英語を使用する場面が設定されるなど、英語使用を中心とした授業づくりを行いやすいよう工夫されている。</p> <p>○平和、自然環境、SDG sなどに加え、日本の漫画・アニメ、車いすバスケットなど、生徒の興味を引きながら、知的好奇心をくすぐるような幅広い題材が取り上げられているなど、工夫されている。</p> <p>○各単元末の「Goal Activity」では、単元で学んだ内容を生かして振り返る活動が用意されている。また、巻末の「What Can I Do?」(CAN-DO リスト)では、単元での学びを振り返りながら、生徒自身が学びの成果と課題が確認できるよう工夫されている。</p>	<p>○小単元「Useful Expressions」で、飲食店、校舎案内、買い物など、日常の場面でよく使われる表現を実際に活用する活動が設定されており、また、巻末の「Activities Plus」に掲載される言語材料も活用しながら、英語使用を中心とした授業づくりを行いやすいよう工夫されている。</p> <p>○環境問題、平和、国際支援、SDG sなど、世界と日本の関係を知るとともに、生徒の感性を高めることにつながるグローバルな課題が題材として取り上げられているなど、工夫されている。</p> <p>○巻末の「Can-Do 自己チェックリスト」(CAN-DO リスト)では、領域別の到達目標に該当する単元が示されている。また、3年間の目標が示されていることで、長期的な見通しの中で、生徒がその単元の学習がどのように位置付けられているか確認し、その都度「できるようになったこと」を意識しながら、学習に取り組めるよう工夫されている。</p>	<p>○巻末の「Let's Talk!」は、学校や家庭での日常的な話題について生徒が即興でやり取りを行う場面が設定されている。また、「Daily Life」では、飲食店、電話、道案内、留守番電話など、実社会における英語使用を意識した活動が提案されるなど、英語使用を中心とした授業づくりを行いやすいよう工夫されている。</p> <p>○3年間の各単元が一つのストーリー仕立てで、環境問題や平和、異文化理解、SDG sなどに関連した題材も取り上げながら、自分のことから身の回りのこと、さらに社会や世界のことへと関心を広げられるよう構成が工夫されている。</p> <p>○各単元の「扉」で、領域別に到達目標が示されており、生徒が目的をもって言語活動に取り組めるよう工夫されている。また、巻頭では、学年の目標と題材名が、巻末のCAN-DO リストでは、領域別の到達目標に該当する単元名が示されており、相互に関連付けながら、俯瞰的に到達度や学習を振り返られるよう工夫されており、優れている。</p>	<p>○小単元「Let's Talk」「Let's Listen」で、買い物、ファーストフード店、電話の会話、道案内など、身近な英語を使用する場面が設定されている。また、発問や問題の指示文も生徒にとって無理のない範囲で、英語で表記されており、英語使用を中心とした授業づくりを行いやすいよう工夫されている。</p> <p>○環境問題、SDG s等に加え、日本や世界で実際に今起こっていること、あるいは実在の人物や実際の出来事などが題材として取り上げられており、生徒の関心を高めながら、その題材を基に意見交換が提案されるなど、工夫されている。</p> <p>○巻末のCAN-DO リストを活用した学習事項の振り返りと、各単元の「とびら」で示されている単元及びパート別の到達目標により、生徒が見通しをもって学習を進めやすく、また、各単元・パートでの言語活動を振り返りながら、次の学びにつなげられるよう工夫されている。</p>

【選定の観点6】

生徒が人権の重要性を学び、人間としての生き方について考察できるための工夫・配慮がなされ、基本的人権の尊重の精神及び道徳性を身に付けられるよう、人権教育や道徳教育の視点に立った内容が積極的に取り上げられていること。

発行者名					
2 東書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館
○ガンディーによる人権確立の話 を題材に、生徒が平和や人権の意 識をしながら学べるよう工夫さ れている。 ○環境保護や日本の伝統文化を海 外へ発信する活動など、生徒の興味 を引く題材が取り上げられており、 生徒が公共の精神や郷土愛、国際理 解について深く考えられるよう工 夫されている。	○手話について学び、生徒が平等で 助け合う社会の大切さについて考 えを深められるよう工夫されてい る。 ○海洋ごみによる生態系への悪影 響という現代的な課題やその解消 のための活動を考えながら、生徒が 環境問題や共生について深く考え られるよう工夫されている。	○人種差別に立ち向かったキング 牧師のスピーチが題材とし取り上 げられており、生徒が人権の大切さ や社会正義などについて考えを深 められるよう工夫されている。 ○ユニバーサルデザインや公平・平 等に関する話題が取り上げられて おり、生徒が個性の伸長や公共の精 神について、考えが深められるよう 工夫されている。	○海外の標識、生活、食事の様子や 手話などが題材として取り上げら れており、生徒が異文化理解や人権 の大切さなどについて考えを深め られるよう工夫されている。 ○日本や世界における自然科学や 環境問題に関する題材が取り上げ られており、生徒が生命の尊重や自 然愛護、環境保全について、考えが 深められるよう工夫されている。	○ナチスドイツによる迫害から逃 れようとしたユダヤ人のために尽 力した杉原千畝を題材に、生徒が平 和や人権の意味について考えを深め られるよう工夫されている。 ○広島での平和学習に関する題材 が取り上げられており、生命の尊重 や国際社会の平和と発展に寄与す る大切さについて、生徒が考えを深 められるよう工夫されている。	○全ての人にとってやさしく、住み やすい社会を目指したユニバーサ ルデザインの話が題材として取 り上げられており、生徒が公共の福 祉や国際理解について考えを深め られるよう工夫されている。 ○原爆や被爆体験の語り部に関す る題材が取り上げられており、生徒 が生命の尊さ、思いやり、平和、男 女平等の大切さについて考えを深 められるよう工夫されている。

【選定の観点7-1】

系統的・発展的に学習しやすい単元構成であることに加え、他教科等の学習内容との関連や現代的な教育諸課題との関連が想起しやすく、また他校種との接続や家庭・地域との連携についても工夫・配慮がなされていること。

発行者名					
2 東書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館
○各単元の「Activity」から「Unit Activity」、さらに各学期末の 「Stage Activity」へと段階的に学 習に取り組むことで、習得した知識 及び技能を総合的に活用しながら、 生徒が発展的な言語活動に取り組 めるよう工夫されており、系統的・ 発展的な学習の充実において優れ ている。	○複数領域を統合的に活用する 「Our Project」が、各学期末に設 けられている。また、小単元「Step」 や各単元「Action」と関連付けて、 習熟度に応じて段階的に難易度を 上げながら、最終的には社会的な課 題に対して、生徒が英語を用いて自 分の言葉で発信する発展的な活動 につなげているなど、優れている。	○各単元は習得から活用へとつな がる構成となっており、言語活動が 系統的に設定されている。また、学 期末に取り組む「Project」では、 生徒が各単元で習得したことを生 かしながら、発展的な言語活動につ ながるよう工夫されている。	○各単元の「Task」と関連付けた 「Project」が各学期末に配置され ており、各単元で習得した知識及び 技能を活用しながら、生徒が自ら考 え、表現する発展的な言語活動につ ながるよう工夫されている。	○3年間を通して、自分のことから 身の回りのこと、さらに社会や世界 のことへと関心を広げるストーリ ー構成となっている。また、各学期 末に取り組む「You Can Do It!」で は、各単元の「Goal」と関連付けて、 生徒が習得した知識及び技能を活 用しながら取り組む発展的な言語 活動につながるよう工夫されてい る。	○各学期末の「Project」では、各 単元で習得した知識及び技能を活 用しながら、生徒が自ら課題を見つ け、考え、判断し、行動する発展的 な言語活動につなげるなど、系統 的・発展的に学習に取り組めるよう 構成が工夫されている。

【選定の観点7-2】

系統的・発展的に学習しやすい単元構成であることに加え、他教科等の学習内容との関連や現代的な教育諸課題との関連が想起しやすく、また他校種との接続や家庭・地域との連携についても工夫・配慮がなされていること。

発行者名					
2 東書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館
<p>○伝統文化や自然環境など、他教科と関連付けた題材が設定されている。また、他教科で学んだことを英語科で生かすコーナーも設定されているなど、工夫されている。</p> <p>○1年生では、Unit0からUnit4まで、小学校で学んだ表現を活用する活動が用意されていたり、小学校で学習したことが視覚的に示されていたりするなど、生徒が小中接続を意識しながら、学習に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○日本や郷土文化を紹介する活動や、日本の習慣やマナー、自分の学校を伝える活動など、生徒が日本や地域のことを発信できるよう工夫されている。</p>	<p>○日常生活だけでなく、環境、平和、人権などの現代的課題について、他教科との関連も図りながら、多様なものの見方や考え方を育むことができるよう工夫されている。</p> <p>○1年生の「Get Ready」から、Program 1、2において、小学校で学習した内容を用いて友だちにインタビューする活動など、やり取りを中心とした課題が設定されており、生徒が積極的に対話を行い、コミュニケーションを楽しめるよう工夫されている。</p> <p>○自分の通う学校の紹介を発信する活動や、日本の文化やおすすめスポットを外国人に紹介する活動など、日本や海外の文化を扱う題材が充実している。</p>	<p>○環境問題や科学等、生徒の発達段階に応じた、他教科との関連をもたせた題材を通して、現代社会の様々な課題について考えを深められるよう工夫されている。</p> <p>○1年生の「Starter」では、アルファベットや語彙を確認でき、小学校での学習と類似した様々な場面、状況での言語活動がゲーム的要素を含み設定されているなど、生徒が小中接続を意識しながら、学習に取り組めるよう工夫されている</p> <p>○日本で人気のあるアニメキャラクターを紹介したり、海外から日本に来る観光客のために観光マップを作成したりするなど、生徒が日本や地域のことを発信できるよう工夫されている。</p>	<p>○職場体験や世界の地理、世界の文化的伝統行事、環境問題等、他教科との関連性をもたせた様々な分野の題材が偏ることなく取り上げられるなど工夫されている。</p> <p>○1年生の単元は、簡易な英語を聞く活動から始まり、小学校で学んだ語彙を使いながら学習を進められるなど、生徒が小中接続を意識しながら、学習に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○学期末に取り組む「Project」で、「日本の文化紹介」や「行ってみたい名所」など、地域を意識できる課題が設定されている。また、自分の住む地域についての紹介文を考え、活動も設定されている。</p>	<p>○世界の中学生の生の声を紹介する題材や英語の歌など、教科横断的な観点から、他教科との関連が図れるよう工夫されている。</p> <p>○小学校で学習した基本表現を復習する「Let's Be Friends!」など、1年生では各単元で視覚資料が効果的に配置され、音声から内容を理解した後、視覚的に文字に慣れていくことができるよう構成されているなど、生徒が小中接続を意識しながら、学習に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○カルタを用いて、地域の名所を海外の人へPRする活動や地域行事を提案する活動が用意されるなど、生徒が日本や地域のことを発信できるよう工夫されている。</p>	<p>○様々な題材を準備することで、意図的に他教科との関連性をもたせ、教科横断的な学習につなげられるよう題材の設定が工夫されている。</p> <p>○1年生「Let's Start」では、小学校で学習した語彙や表現などを振り返る内容になっており、また、中学校生活での期待などについて話す活動が、適宜設定されるなど、生徒が小中接続を意識しながら、学習に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○海外の姉妹校に「日本文化のパンフレット」を送る活動や「日本の習慣やマナーを伝える活動など、生徒が日本や地域のことを発信できるよう工夫されている。</p>

【選定の観点8】

表記、表現、写真、図表等が適切かつ正確であることに加え、ユニバーサルデザインの観点から、文字フォント、色の使用、紙面の構成等において見やすく読みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

発行者名					
2 東書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館
<p>○A4判が採用され、視覚資料が大きく掲載されている。学習したことや自由な表現をすぐ書き込むことができるスペースが確保されている。</p> <p>○全ての生徒の色覚特性に適応するようにデザインされている。特別支援教育の観点や生徒の学習負担に配慮し、書き文字との差異が少ない書体を独自に開発、使用されている。見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントが採用されている。</p> <p>○製本は堅牢で、十分な耐久性を備えている。</p> <p>○再生紙・植物油インキが使用されている。</p>	<p>○A4判が採用され、生徒の深い理解を補助するイラストや写真などが豊富に掲載されているが、詰め込み感もなく、ゆとりのある紙面となっている。</p> <p>○カラーユニバーサルデザインの視点から、色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの生徒が見やすくなるように配慮をされている。特別支援教育の視点から書かれている内容が読み取りやすくなるように、文章や紙面の配置などを工夫されている。日本語には見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントが採用されている。</p> <p>○製本は堅牢で、十分な耐久性を備えている。</p> <p>○環境に配慮された用紙やインキが使用されている。</p>	<p>○A4判が採用され、イラストや写真が大きく扱われており見やすい。</p> <p>○カラーユニバーサルデザインに配慮して編集されている。見やすく読み間違いにくいユニバーサルデザイン書体が使用されている。</p> <p>○製本は堅牢で、十分な耐久性を備えている。</p> <p>○環境に優しい用紙と植物油インキが使用されている。</p>	<p>○AB判が採用され、挿絵・図版・写真は、生徒の学習意欲や想像力を高め、また文章理解を支えるイメージ豊かなものが掲載されている。</p> <p>○色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮されている。見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントが使用されている。</p> <p>○製本は堅牢で、十分な耐久性を備えている。</p> <p>○環境に優しい再生紙と植物油インキが使用されている。</p>	<p>○AB判が採用され、横組の文字が読みやすく、紙面を視覚的に大きく見せることで、読みやすさや見やすさに配慮されている。</p> <p>○全てのページについて、カラーユニバーサルデザイン、特別支援教育、学習のユニバーサルデザイン、人権教育、外国人児童生徒等教育、防災教育の観点から、専門家による校閲が行われている。また、生徒の学習負担を軽減するよう小学校との接続期の英文には、活字体と書き文字との差異の生じない書体が独自に開発、使用されている。</p> <p>○製本は堅牢で、十分な耐久性を備えている。</p> <p>○環境に配慮した紙、植物油インキが使用されている。</p>	<p>○A4判が採用され、イラストや写真を効果的に掲載し、学習効果が上がるように配慮されている。</p> <p>○1年の英語部分には、見やすく読み間違いにくいユニバーサルデザインフォントが採用されている。個人の特性に関わらず、内容が伝わりやすい配色・デザインが用いられている。</p> <p>○製本は堅牢で、十分な耐久性を備えている。</p> <p>○再生紙と植物油インキが使用されている。</p>